

NCA Phoenix Project 08



March 28 2008

2007年度の成果

① 自立の達成

② 収支改善の胎動

07年度の成果 ①

① 自立の達成

運送	NCA Japan 開業 = 運送の自立	(07年1月)
整備	B747-400F 整備の自立	(07年7月)
	整備ハンガー着工	(08年1月)
運航	NCA 乗員訓練センター着工	(07年9月)
	運航管理の自立 = グローバルオペレーションセンター開設	(08年4月)
IT	整備・運航・貨物システム稼動 = ITの完全自立	(08年4月)
組織	世界四極体制の構築	(07年4月)
	本社四本部制の設置	(07年6月)
ネットワーク	Jett8の就航・ソウル線再開・北京線開設・北米西岸直行化	(07年6-11月)
機材更新	B747-200F 退役 6機	(08年3月)
	B747-400F 受領 4号機(07年3月)、5号機(10月)、6号機(12月)	

総計435項目のアクションプランを完了

07年度の成果 ②

② 収支改善の胎動 (07年度)

収支改善への回復軌道、スピードアップ

上期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
予算達成度	×	×	×	×	×	×	×

燃料の高騰 \$75/BBL ⇒ \$84.7/BBL(期中平均)

荷況の不振 06年夏 ~ 07年夏

下期	10月	11月	12月	1月	2月	(3月)	合計
予算達成度	○	○	○	○	○	◐	○

燃料の高騰 \$75/BBL ⇒ \$106.7(期中平均)

荷況の回復 07年夏以降、成長に転じる

荷況回復を掴む営業力強化 (お客様との関係強化・科学的マーケティング)

自立達成・機材更新による二重コスト削減

TRG (コスト削減・燃料節減運動) による地道なコスト削減

NCAの対応

最新鋭機材に特化した効率的な運航 = 稼働率向上/コスト削減

B747-200F 完全退役 (08年3月)

B747-400F 6機(4月) → 7機(6月) → 8機(8月) → 9機(10月) → 10機(3月)

B747-8F 導入 (09年度より) ⇒ 14機 (13年度末)

荷動きに対応したネットワーク展開とマーケティング

成長するアジアでの基盤強化

定時性向上

全部署参画のプロジェクト ⇒ 輸送品質のさらなる向上

卓越した環境性能 (CO₂、NO_x、静粛)

収支改善

130億円超(08年度)の燃料負担増を克服
収支改善の遅れを一年に留め、成長軌道に復帰

	前提燃料	08年度	09年度	10年度	
前年度計画	\$75/BBL	下期黒字	通期黒字	利益成長	→
新計画	\$115/BBL		下期黒字	通期黒字	利益成長 →

- 自立の達成
- 営業力の強化
- コストの一層の削減
- 新機材(B747-8F)のシリーズ導入

強大なハードウェア

先進ソフトウェア



質量ともに
世界トップクラスの
貨物航空会社

ハードウェア

(環境にやさしい24機のフリート + 最新の施設)



B747-400F X 10機



B747-8F X 14機

乗員訓練センターとシミュレーター



整備ハンガー



ソフトウェア

(自立した運航・整備・IT、人財・組織)

最新のIT・システム

整備	運航	貨物情報
i-Macs(Trax) 	i-Sky(Sabre) 	i-Cargo 
2007年7月	2008年4月	2008年4月

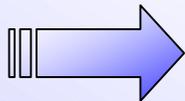
本社四本部制・世界四極体制
グローバルな人財

事業環境

燃料高騰
環境問題

旧世代機材の採算が悪化

旧世代機材 CO₂ / NO_xの排出量・騒音大
= 環境への負荷大



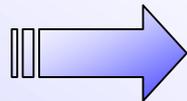
旧世代機材の退役加速

事業環境 - 機材

経済性の高い機材の必要性の高まり

新造大型貨物機の供給増は限定的

アジア-欧米トレード ⇒ 大型貨物機による輸送が不可欠



大型貨物機の需要増

事業環境 - 市場

■ アジアが成長の原動力

	RESULT 2005-2006	BOEING (2005-2025)			AIRBUS 2006-2025
		HIGH	BASE	LOW	
アジア⇒北米	2.5%	7.6%	7.1%	6.1%	6.0%
北米⇒アジア	7.3%	8.5%	7.2%	6.1%	5.8%
アジア⇒欧州	8.9%	8.2%	6.8%	5.6%	7.5%
欧州⇒アジア	10.3%	8.2%	7.0%	5.5%	5.7%
アジア域内	5.8%	10.8%	8.6%	6.4%	5.6%

■ 日本発以上にその他のアジア発が高成長

2006-2025	日本発	AOTJ発
北米向	4.5%	6.3%
欧州向	5.0%	7.8%

AOTJ= Asia Other Than Japan

Source : Airbus

■ 日本は、発着のバランスが良い市場

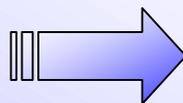
事業環境 - 日本の航空政策

日本版航空ビッグバン(2010年)

成田B滑走路延伸

羽田再国際化

アジアゲートウェイ政策



首都圏の発着枠増加
日本発着アジア便の増加

ミッション

■ 安全・遵法

■ Change Challenge Chance

Change (事業環境の変化) を Challenge によって Chance に変える

⇒ GEC³ の実現

(Global and Efficient Common Cargo Carrier)

■ アジアを基軸としたグローバル貨物航空会社

目標

質・量ともに世界トップクラスの貨物航空会社

2013年度 営業収益 3,000億円

経常利益 220億円達成

7つの柱

- (1) 効率的な大型貨物機フリートによる輸送品質向上
- (2) 自立したグローバル事業インフラの確立
- (3) 日本における事業基盤の強化
- (4) アジア発着グローバルビジネスモデルの開発
- (5) グローバルマーケティングと営業力の強化
- (6) 国際競争に耐えるコスト競争力の実現
- (7) 安全運航体制・経営基盤の強化

(1) 効率的な大型貨物機フリートによる輸送品質向上

2008年度初頭
全機材のB747-400F化
09年度～13年度
新鋭機材B747-8Fの導入
14機の基幹フリート

ハードウェア

ソフトウェア

徹底活用

安全・定時運航・輸送品質
人財・マーケティング・営業力
世界四極体制・本社四本部制

輸送品質向上
収入の最大化



B747
200F



B747
400F



B747
8F



(2) 自立したグローバル事業インフラの確立

整備 (2008年3月200F全機退役、4月完全自立)

安全運航とビジネス拡大を支えるグローバルな整備体制による柔軟性と競争力の確保

IT 3大基幹システムの導入完了(2008年4月)⇒完全自立

整備	運航	貨物情報
i-Macs(Trax)	i-Sky(Sabre)	i-Cargo
		
2007年7月	2008年4月	2008年4月

先進IT活用によるお客様へのサービス向上と業務プロセスの合理化
新会計システムの導入 2009年4月

運航 2009年 運航乗員関連自立 ⇒ 全ての自立完了

(3) 日本における事業基盤の強化

**2010年度 成田B滑走路延伸
羽田再国際化**

⇒ **日本における事業基盤の確保**

- **成田を基軸とした事業展開**
- **NCA Japan による戦略立案、事業統括・執行**

(4) アジア発着グローバルビジネスモデルの開発

成長するアジアにおけるグローバル事業基盤を強化・拡充

■ 自社ネットワーク

日本・アジア ⇔ 北米 / 日本 ⇔ 欧州 の拡充

■ 戦略的パートナーとの協業 (Jett8等)

自社ネットワークとのシナジーによるグローバルな展開

アジア ⇔ 欧州・中近東・アフリカ

■ チャーター便

戦略的パートナーとの連携による機動力のあるサービスの提供

(5) グローバルマーケティングと営業力の強化

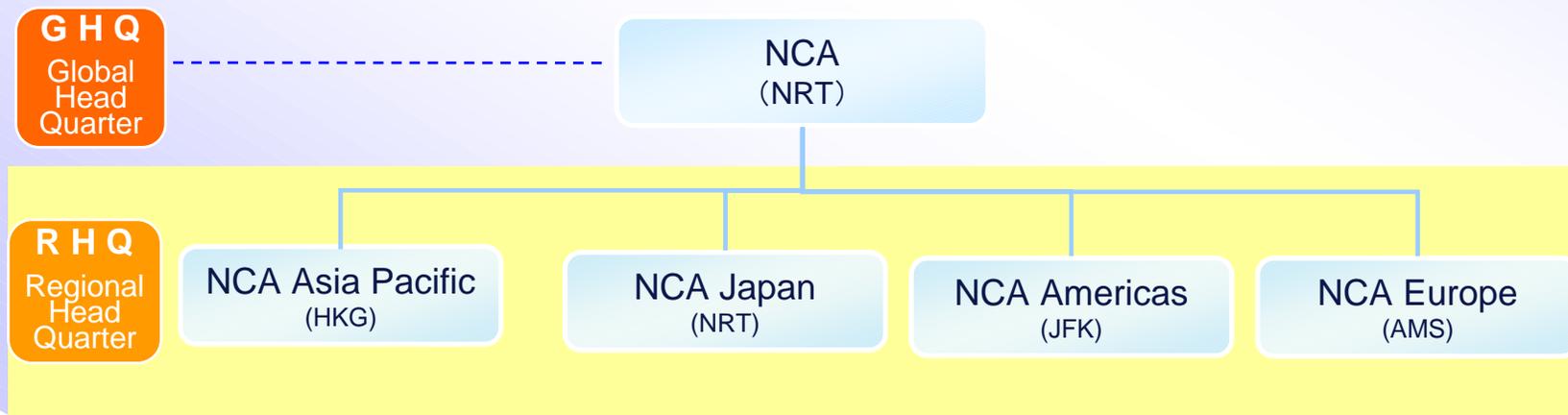
■ 効率機材性能を収益に結び付ける

機材稼働の向上

機材性能の最大活用

機動力のある最適ネットワーク構築

■ 世界四極体制 各地域のマーケティング・営業力強化



(6) 国際競争に耐えるコスト競争力の実現

- 新鋭機材による燃料費・整備費の削減
- グローバルスタンダードなコスト競争力
- 調達のグローバル化
戦略的パートナーとの共同調達
- 最新ITを基礎にした業務改善による生産性の向上

(7) 安全運航体制・経営基盤の強化

安全運航・法の遵守 ⇒ 会社経営の根幹

安全・保安・環境・コンプライアンス対応の組織的強化、人財育成プログラムの拡充

■ 安全・定時運航体制

IOSA認証取得

(IATA Operational Safety Audit, IATAによる世界共通の安全監査基準に基づく監査)

定時運航プロジェクト

■ 環境負荷の少ない航空サービスの提供

環境にやさしいB747-8Fの導入

⇒ CO2・NOx 排出・騒音の低減

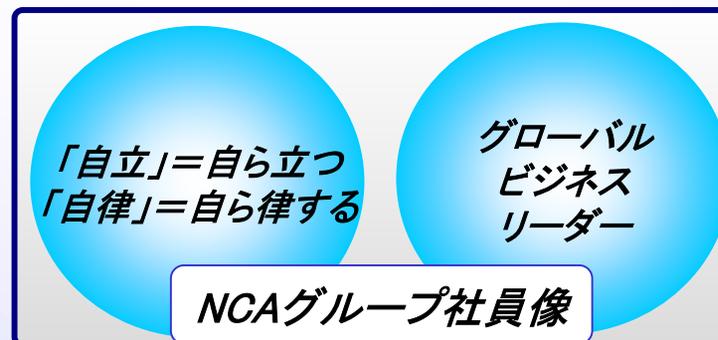
エコハンガー、電動フライトシミュレータ

■ 人財育成

グローバルな事業展開を支える

グループ社員＝最も重要な経営財

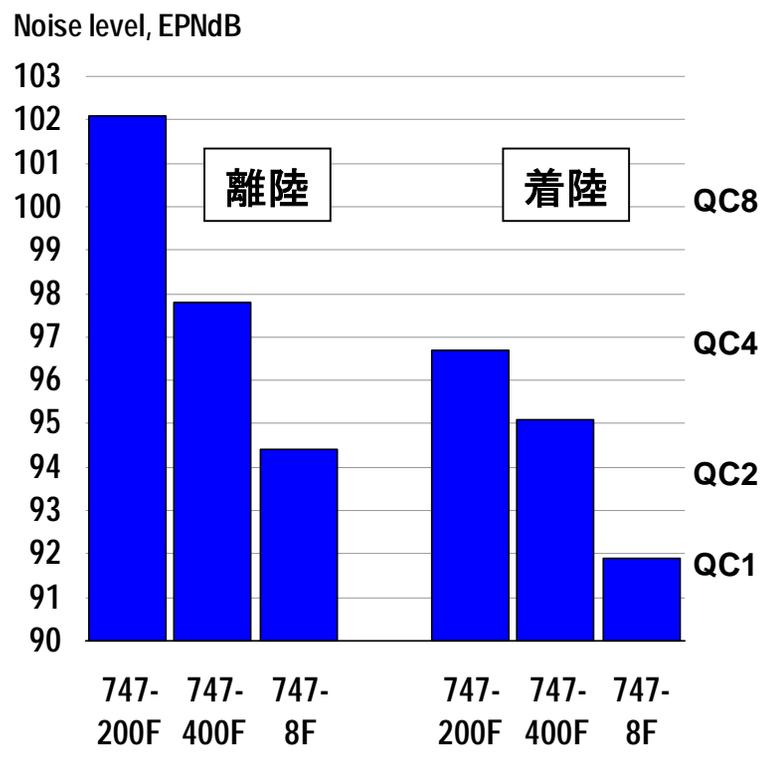
人財育成プログラム策定



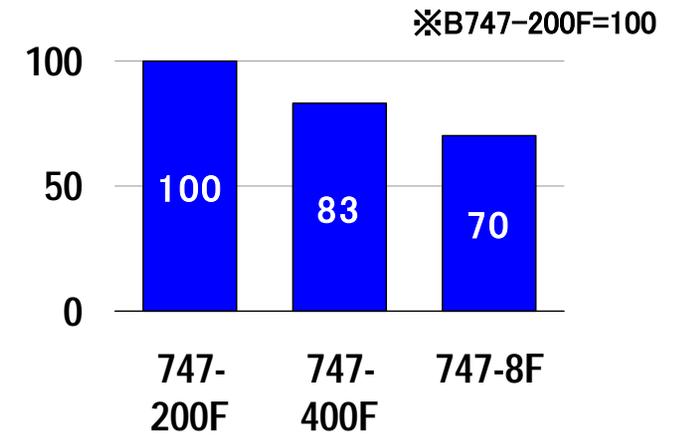
B747-8Fの環境性能

最新鋭機材の導入 ⇒ CO₂・NO_x 排出・騒音の低減

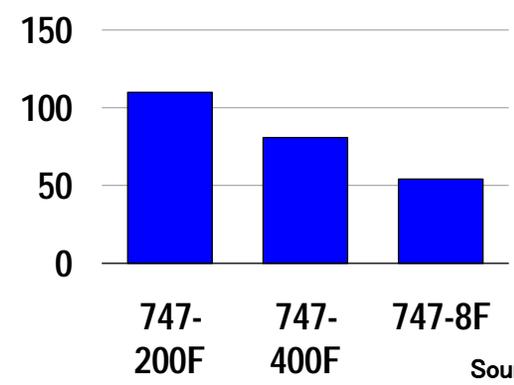
騒音レベル



CO₂



NO_x



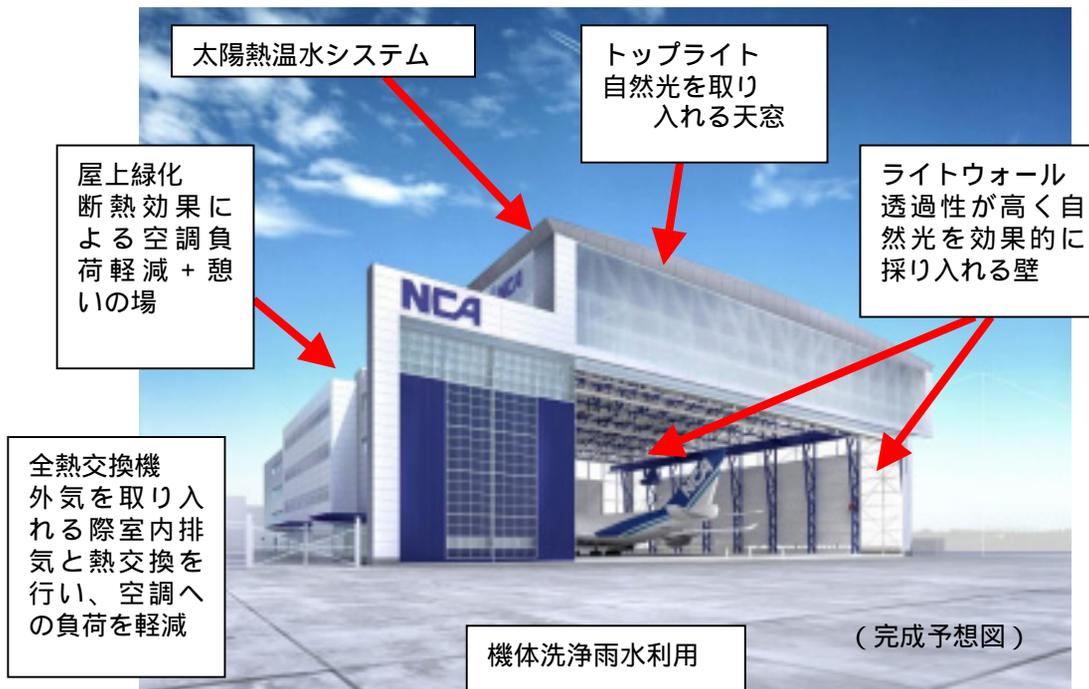
環境に配慮した施設

【エコハンガー】

年間CO²排出量 従来型比30%減
900t⇒約620t、年間約280tの削減

【フライトシミュレーター】

電動式(従来:油圧式)



収支・機材計画

(単位：億円)

	07年度	08年度	09年度	10年度	13年度
売上高	1,010	1,050	1,300	1,650	3,000
経常損益	▲ 265	▲ 120	▲ 70	30	220

運航機材	B747-200F	期末退役				
	B747-400F	6	10	10	10	10
B747-8F			2	5	14	
合計(年度末)	6	10	12	15	24	

運航機材	平均機齢(年度末)	1.4	1.7	2.3	2.8	4.2
	平均稼働時間/日	11.2	13.5	13.6	13.8	14.0

MOPS	\$97	\$115	\$115	\$115	\$115
------	------	-------	-------	-------	-------

為替 (1USDドル)	¥115	¥100	¥100	¥100	¥100
-------------	------	------	------	------	------

ありがとうございました

